

九州生乳販売連会報



TOPICS

新年のご挨拶	1
酪農情勢報告	6
特別寄稿 生乳共販制度と指定団体の果たす役割について②	8
令和4年度畜産物価格および関連対策の決定について	10
令和4年度季節別乳価実施要領について	10
令和4年度生乳取引交渉（経過）について	10
令和3年度生乳品質共励会の途中経過について	11
令和3年度月別受託生乳検査成績	11
令和3年度会員別生乳受託販売数量	12
令和3年度販売状況について	12
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせと報告について	13
新聞広告の第2弾を掲載しました	16

新年のご挨拶



九州生乳販売
農業協同組合連合会
代表理事会長 中村 隆馬

明けましておめでとうございます。

酪農家の皆様並びに会員役職員の皆様におかれましては、寅年の新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと5、8、9月の豪雨、また9月には台風14号の襲来と酪農経営に被害を与える自然災害に見舞われました。改めて被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。

また厄災としては、一昨年来から世界中で感

染拡大と収束を繰り返している新型コロナウイルス感染症があり、いまだに収束後の世界が見通せません。世界において、新型コロナウイルスの大流行は数十年分の経済発展を巻き戻し、財政に甚大な打撃を与えています。このような中にも世界経済の回復は続いています。先進国と低所得発展途上国の回復の違いなど格差が拡大しています。国内の経済状況も同じく厳しい状況にあります。今後も感染拡大の防止対策、ワクチン接種を促進するなかで持ち直しが期待されますが、感染の動向が経済に与える影響に十分注意する必要があります。

政治においては衆議院選挙により岸田首相が誕生しました。「新しい資本主義」を唱え、今までの「新自由主義」からの方向転換を表明しました。「新しい資本主義」の政策による農業への対策を期待するところです。

酪農乳業界もコロナ禍の影響を受け続けています。インバウンド需要の喪失や緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が幾度となく発令されたことで在宅勤務や時差出勤、県外異動自粛、飲食店等が営業自粛となり牛乳乳製品の消費も減少しました。コロナ禍当初は巣ごもり需要もあり比較的消費は堅調でしたが、長引くコロナ禍の生活から巣ごもり需要も見込めなくなり、

最近は生乳需給が緩和しています。年末には金子農水大臣、岸田首相や小池都知事などの都道府県首長が年末年始に生乳が処理できずに5,000t廃棄される可能性について言及した報道がありましたが、この一連の報道で牛乳等の消費が増えました。このようなこともあり、年末年始に限っては処理不可能乳の発生は回避できましたが、引き続き油断できない状況は続いています。またこのような中、昨年末から年始にかけて酪農家の皆様には無理のない範囲での生乳出荷抑制にご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

生乳の受託販売においては「畜産経営の安定に関する法律」の制度改正にともなう、生乳の系統外への販売事例が見られます。昨年の規制改革推進会議農業WGにおいて牛乳・乳製品の生産・流通に関する規制改革について議論がなされ、系統出荷が依然として高いことから、酪農家への生乳取引の実態調査が実施されました。また農林水産省が作成した「指定事業者が生乳取引を拒否できるルール違反の事例集」が系統外への出荷を抑制しているとの指摘から見直しが提言されました。今後の調査結果等を踏まえた制度改正や事例集の見直しについては内容を注視し、しっかり対応しなければなりません。

令和3年度の九州の生乳生産量は前年を上回って推移しており、数年来本会や会員で取り組まれた生産基盤強化対策や増産対策の効果が表れています。他の地域においても北海道が102%台、都府県においても101%台と生乳生産が回復してきています。せっかく生産基盤が整ってきた中にコロナ禍によって生乳需給が緩和したのは非常に残念でなりません。

令和4年度乳価交渉については飼料や資材のコスト増分の値上げ要請をしておりますが、バター・脱脂粉乳の在庫水準が極めて高いことからなかなか厳しい交渉となっています。全国の交渉状況も鑑みながらとはなりますが、本会としては生産現場の窮状を訴えて、九州の生産意欲や基盤の毀損を招かぬよう、九州酪農の未来のために交渉してまいります。

4年度の畜産物価格については12月24日に決定しました。生産者補給金8.26円(前年度±0.00円)と集送乳調整金2.59円(前年度±0.00円)合わせて10.85円(前年度±0.00円)の同額となりました。交付対象数量も前年度同量345万トンとなり、補給金・調整金と交付対象数量ともに据え置かれました。一方で乳製品在庫解消のため「ウィズコロナにおける畜産物の需給安定推進事業」が措置され、そのうち過剰在庫低減対策に約28億円を予算化し2.5万tの在庫削減に取り組みます。コロナ禍が要因とはいっても喫緊の課題はとにかく国と生産者と乳業者が一体となり、乳製品の過剰在庫を解消する事だと考えます。

牛乳消費拡大や酪農理解醸成については、継続的な消費のためには消費者への消費拡大運動・酪農理解醸成活動が不可欠となりますので、皆様のご協力をお願いいたします。直近は生乳需給が緩和していますので、今後は牛乳乳製品の消費拡大に特に力を入れていきたいと考えております。

生乳販売においては今後の本会の方向性を見据えた業務推進計画を作成しましたので、計画に沿った集送乳や生乳受託販売業務の合理化に取り組み、販売経費を低減することでメリットを出したいと考えております。そして、生乳生産基盤を維持し、安全・安心で良質な生乳生産に取り組み、さらに需要期に生乳を供給することで各乳業者から信頼の得られる生乳取引を構築するよう引き続き努力する所存であります。

最後になりますが、本会が指定団体の需給調整機能を維持するためには、酪農家の皆様の結束が重要だと考えます。そのために役職員一丸となって信頼される指定団体を目指して頑張りますので、皆様方の一層のご理解とご協力と九州酪農の発展のためにご尽力賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

新年の御挨拶



九州農政局長

宮崎 敏行

新年を迎え、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

皆様方には、平素より酪農・畜産関係施策の推進に御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の酪農・乳業界においては、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う外食の休業やインバウンド需要の喪失等により、業務用乳製品が大幅な需要減となったことを受け、脱脂粉乳・バター等の乳製品の在庫が高水準となりました。

このため、農林水産省として、脱脂粉乳等を飼料用など需要がある分野で活用する取組への支援などの財政措置を講じてまいりました。しかしながら、生乳の生産量が堅調である一方で、牛乳乳製品の需要は業務用を中心にコロナ以前の状況まで回復しておらず、飲用需要が伸び悩み、例年にない緩和基調が続いております。

特に年末・年始においては、例年以上に需給が緩和し、処理不可能乳の発生も懸念されたことから、生産者団体等では、一時的に生産や出荷を抑制する取組のほか、全国の乳製品工場でのフル操業による最大限の乳製品処理に取り組んでいただいております。農林水産省においても、率先して牛乳の消費を拡大すべく、「NEW(乳) プラスワンプロジェクト」を開始し、吉本芸人と当省若手職員がコラボしたPR動画の作成や、牛乳を使った和食「乳和食」の推進な

ど、消費拡大の取組を進めております。

また、我が国における酪農については、生産者の高齢化や後継者不足による酪農家戸数の減少等に伴って、生乳生産量は減少傾向で推移してまいりましたが、令和元年度には全国で4年ぶりに増加に転じ、九州管内においても令和2年度には増加に転じたところです。こうした長年の関係者の努力により築かれた生産基盤が損なわれることのないよう、加工原料乳生産者補給金などの経営安定対策に加え、国産チーズの競争力強化対策等を措置し、地域の実情に応じた酪農の生産基盤の維持・強化を推進してまいります。

牛乳乳製品の輸出については、令和2年11月に「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」が取りまとめられ、令和12年の目標を720億円と設定されました。牛乳乳製品の輸出額は堅調に推移し、令和2年には222億円と過去最高額を更新しました。このように好調な牛乳乳製品の輸出の更なる拡大を後押しするため、生産者・乳業メーカー・輸出事業者が連携した「コンソーシアム」を設立し、生産から輸出まで一貫した輸出促進を図る取組を支援してまいります。

九州農政局といたしましても、酪農に携わる皆様が将来に希望をもって経営を継続していただけるよう、関係者の皆様方との連携を引き続き図るとともに、みどりの食料システム戦略も踏まえ、九州地域における酪農の生産性向上と持続性の両立に向けた支援等をしっかりと進めてまいります。

最後になりますが、本年が九州の酪農・乳業界にとってより良き年となりますようお祈りするとともに、貴連合会並びに会員の皆様の益々の御発展を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年を迎えるに あたって

一般社団法人
中央酪農会議
会長 中家 徹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

酪農家並びに関係の役職員の皆様におかれましては、日頃より、本会議事業への格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、昨年夏に発生した豪雨等により被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、最近の酪農をめぐる情勢を踏まえ、所信の一端を述べさせていただきます。

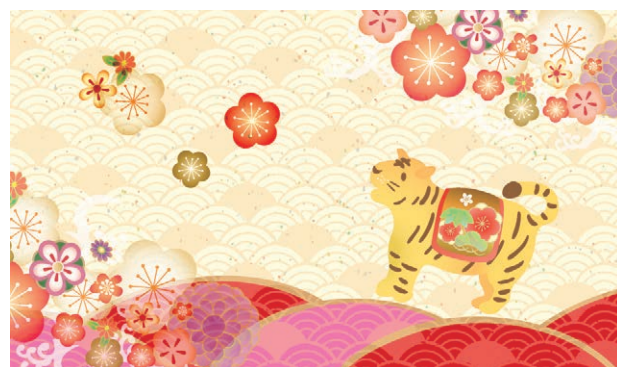
昨夏は一時的に猛暑の影響を受けたものの、乳用牛が比較的過ごしやすい気温だったことに加え、全国各地でこれまでに取り組まれてきた生産基盤維持・強化対策の成果等により、生乳生産量は北海道、都府県ともに前年を上回って好調に推移しました。一方、消費の面では、コロナ禍での緊急事態宣言等の断続的な実施に伴う外食や観光業等への影響を背景に、業務用需要の回復が遅れており、飲用牛乳等向け処理量は依然低調となっています。

こうした結果、乳製品在庫が積み増す状況となっており、酪農経営の改善及び新たな政策方向に即した対応への阻害要因となっています。また、今年度末に向け、不需要期における処理不可能乳の発生も懸念されており、業界関係者自らが消費促進に励むことが重要となっています。皆様におかれましても、牛乳乳製品の消費拡大への積極的な取り組みをお願いいたします。

本会におきましては、生産基盤を毀損させないことを前提とした出荷抑制や需要・消費を喚起することで、この難局を乗り切ることが重要なことから、①需給見通しの精緻化と指定団体・全国連間の情報共有、②円滑な広域需給調整と全国の乳製品工場のフル操業による最大限の乳製品処理の実現、③理解醸成活動並びに酪農関係者による牛乳・乳製品の利用拡大運動を通じた需給改善対策、を枠組みとして取り組んでおります。なお、円滑な広域需給調整と全国の乳製品工場のフル操業による最大限の乳製品処理の実現を後押しするため、令和3年11月に開催した本会議の理事会におきまして、需給調整リスクの一部地域の偏在化への対応として年度当初から取り組んでいる「加工リスク平準化緊急対策」の財源に本会正味財産を追加で充当することに加え、同対策で製造された乳製品在庫の保管経費の助成を新たに実施することを決定し、取組を開始しております。

令和4年度におきましても、本会役職員一同、指定団体及び会員組織の皆様と連携し、今後も酪農家の皆様が、引き続き「誇り」、「やりがい」、「夢」を持てる酪農産業を確立して行けるよう努めてまいります。

本年も酪農家及び酪農関係者の皆様方のご支援、ご理解の程、宜しくお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりましてより良い年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶



九州酪農政治連盟協議会
会長 宮本 貞治郎

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

九州生乳販売農業協同組合連合会の役職員の皆様、九州の酪農家の皆様、並びに関係者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、当協議会の活動につきましては、特段のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行から先の見えない閉塞感を抱えながらの生活が約二年続きましたが、全国各地でワクチン接種が進み新規感染者も減少傾向に転じて日一日と日常が戻りつつある事は何より安堵するところで御座います。しかしながらアフリカや欧米各国では感染力の強い新たな変異株が急拡大し、我が国においても入国制限やワクチン追加接種の議論などで慌ただしい年の瀬となりました。ワクチン接種による集団免疫の獲得や治療薬の一刻も早い普及による終息を心より願っております。

九州の酪農に目を転じますと、増頭対策や畜産クラスターの活用により後継牛の確保・規模拡大に努めてきた成果が生乳生産量の増加に現れた一年であり非常に喜ばしい事であります。一方で飲用牛乳等向け生乳量には巣籠需要に支えられた昨年度の勢いは見られず、度重なる緊急事態宣言に伴う活動自粛により業務用牛乳乳製品の需要は低迷し脱脂粉乳・バター等向け生

乳量は前年を超えて推移しております。

この需給状況は全国的に同様で年度末乳製品在庫も高水準となる見込みで、特に脱脂粉乳は過去最高の在庫水準に達すると言われております。我々は、過去にも過剰な乳製品在庫の対応として、低能力牛の淘汰などに取組み、減産型の生乳計画生産を強いられました。結果、廃業や飼育頭数の減少に繋がり記憶に新しいバター不足が社会問題となりました。

当協議会においても貴連合会より今般の厳しい需給環境をご説明頂き、意見交換した内容を自由民主党の九州選出議員で構成する九州酪政会に対して「乳製品在庫解消に関する要請」を提出し、国の支援を強く訴えてきた所でございます。

前述の問題以外にも、我が国の酪農は、酪農家戸数の減少や後継者確保・育成、穀物相場の上昇や円安などによる飼料価格の高騰、海上輸送におけるコンテナ不足による輸入粗飼料のひっ迫、家畜排せつ物の管理の適正化など多くの課題を抱えており、酪農経営に悪影響を及ぼす要因となって来ております。

当協議会としましては、今後とも九州・沖縄酪農の持続的発展に向け、貴会、日本酪農政治連盟、九州・沖縄各県の酪政連組織などの関係団体と連携し、このような課題・問題を解決するよう国政・行政へ要請活動に注力して行く所存で御座いますので変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、貴連合会、九州の酪農生産者の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和3年12月の生乳出荷戸数は1,198戸で、令和3年3月時点の1,227戸と比較すると29戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

23カ月令以下の頭数は、11月まで前年を下回っていましたが、12月では前年を上回りました。一方、24カ月令以上の頭数は11月まで前年を僅かに下回る水準での推移でしたが、12月は前年との乖離がやや広がりました。総頭数では前年を下回った推移となっています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

		10月	11月	12月
23カ月令以下		28,043	28,341	28,616
	増減	-781	-236	81
	前年比	97.3%	99.2%	100.3%
24カ月令以上		75,223	75,277	75,042
	増減	-166	-163	-633
	前年比	99.8%	99.8%	99.2%
総頭数		103,266	103,618	103,658
	増減	-1,558	-795	-844
	前年比	98.5%	99.2%	99.2%

注:Jミルクホームページより

出生総頭数は、9～11月で前年を上回りました。その内訳として、乳用種雌および乳用種雄はほぼ前年並みとなり、交雑種が前年を上回っています(表2)。

3. 生乳需給

(1)生乳受託販売数量

昨年は残暑が短く、牛体へのダメージが少なかったこともあって、10・11月の生乳受託販売数量は前年を1%以上上回って推移した一方、12月は前年比100.8%と10・11月の水準を下回りました。

10・11月の都府県および北海道も前年を上回って推移し、全国でも前年を上回りました(表3 ※全国の12月実績の公表が今号発行に間に合わなかったため、都府県・北海道・全国の12月実績が空欄になっています)。

表2 出生頭数

(単位:頭)

		9月	10月	11月
総頭数		4,648	4,603	4,531
	増減	274	155	13
	前年比	106.3%	103.5%	100.3%
うち、乳用種雌		1,185	1,254	1,113
	増減	2	79	-55
	前年比	100.2%	106.7%	95.3%
うち、乳用種雄		732	675	627
	増減	37	-17	-46
	前年比	105.3%	97.5%	93.2%
うち、交雑種		2,249	2,205	2,276
	増減	277	47	97
	前年比	114.0%	102.2%	104.5%

注:Jミルクホームページより

表3 生乳受託販売数量

(単位: t、%)

		10月	11月	12月
九州		48,539	47,964	50,366
	前年比	101.1%	101.7%	100.8%
都府県		253,199	248,159	-
	前年比	101.3%	101.6%	-
北海道		344,093	333,914	-
	前年比	103.6%	104.4%	-
全国		597,292	582,073	-
	前年比	102.6%	103.2%	-

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2)生乳販売状況

10月から全国的に緊急事態宣言が解除され、需要の回復が期待されましたが、10月下旬以降、気温の低下とともに飲用向け・はっ酵乳等向けの需要が落ち込み、10・11月は脱脂粉乳・バター等向けが大幅に増加しました。12月は、上中旬までは10・11月と同様飲用向けの低調な推移が続きましたが、下旬は飲用向けが好調に推移し、脱脂粉乳・バター等向けは前年を上回った一方10・11月の水準を下回りました(詳細は4に記載)。

全国が生乳販売状況については、10・11月は全国的に飲用向けが低調に推移し、脱脂粉乳・バター等向けが大きく増加しました(表4 ※全国の12月実績の公表が今号発行に間に合わなかったため、全国の12月実績が空欄になっています)。

(7ページへ続く)

表4 用途別販売数量

(単位: t、%)

	用途	10月	11月	12月
九州	飲用 (前年比) (前々年比)	36,411 100.7% 103.3%	34,285 98.5% 100.5%	32,133 99.9% 102.6%
	はつ酵乳 (前年比) (前々年比)	7,166 97.3% 94.3%	6,627 91.5% 92.8%	6,582 96.5% 100.3%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比) (前々年比)	2,376 123.8% 130.7%	4,335 173.8% 168.4%	8,947 108.1% 105.1%
	生クリーム (前年比) (前々年比)	2,491 102.3% 105.0%	2,621 103.8% 103.2%	2,618 101.4% 93.3%
	チーズ (前年比) (前々年比)	96 99.3% 97.0%	97 102.5% 98.9%	86 91.4% 89.5%
	飲用 (前年比) (前々年比)	283,031 98.7% 97.4%	261,054 97.6% 97.4%	-
	はつ酵乳 (前年比) (前々年比)	38,241 98.3% 99.1%	36,191 97.1% 96.2%	-
	脱脂粉乳・バター等 (前年比) (前々年比)	129,381 112.5% 131.6%	136,511 113.8% 129.5%	-
	生クリーム (前年比) (前々年比)	110,701 101.0% 98.0%	115,442 106.5% 103.6%	-
	チーズ (前年比) (前々年比)	35,939 113.8% 114.7%	32,876 105.6% 101.5%	-

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

4. 年末年始の処理不可能乳発生回避について

全国的に生乳生産が堅調に推移する一方、緊急事態宣言解除後も業務用需要の回復の遅れや家庭内消費の落ち着きにより、年末年始に処理不可能乳発生の懸念がありました。しかし、生産者の生乳出荷抑制、乳業者の最大限の処理、そして酪農乳業界を挙げての消費拡大の取り組みが全国で行われたこと、また、年末年始に処理不可能乳発生の可能性があることが各メディアで大きく報じられたこと等により飲用需要が好調に推移し、年末年始での処理不可能乳の発生は回避されました。

九州でも、Jミルクの緊急酪農生産基盤堅持対策事業を活用した生乳出荷抑制対策「令和3年度生産基盤堅持緊急対策事業」を措置したうえで、生産者の皆様に

は生乳出荷抑制への協力をお願いしました。また、九州内の各所で消費拡大の取り組みも行われました。皆様に多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

なお、3・4月の春休み期には生乳需給が再び大幅に緩和することが見込まれています。これに対し、どのように取り組んでいくかは早急に検討してまいりますので、引き続きご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

5. 今後の生乳需給について

コロナ禍前まで、生乳需給はひっ迫する状況が続いていたことから、業界として増産が必要という認識で一致し、生乳生産基盤強化の取り組みを継続して行ってきました。その結果、九州では令和2年度から、全国では平成31年度(令和元年度)から生乳生産が前年を上回り始めましたが、その矢先、新型コロナウイルスの影響により需要が停滞し、全国的に脱脂粉乳・バター等向けの増加が続いており、脱脂粉乳在庫は過去最高水準に達しようとしています。

一方、酪農業界を取り巻く環境は、世界的な原油価格の高騰や物流の停滞により飼料価格が高騰し、生産資材不足や高騰、人手不足も合わさり、非常に厳しい状況となっています。さらに、原油価格の高騰は物流コストの上昇にも直結しています。本来、こうしたコスト上昇は市場価格に反映させる必要がありますが、生乳需給の緩和からなかなか厳しい状況にあります。

令和4年度に向けては、生・処・国による2.5万tの脱脂粉乳在庫削減対策が実施されることが決定しました。生産者側にとっては、新たな負担が増えることとなりますが、こうした取り組みにより少しでも早く需給環境を改善していく必要があります。

本会としては、中央酪農会議とJミルクと連携して需給改善への取り組みを進めるとともに、有利販売・消費拡大への取り組みを続け、少しでも早く生乳生産環境が改善されるよう取り組んでまいります。



生乳共販制度と指定団体の果たす役割について②

指定団体の共販率が低下した場合の影響について考えてみる

一般社団法人中央酪農会議
事務局長 寺田 繁

前回、指定生乳生産者団体(指定団体)は、(酪農家への)加工原料乳への補給金等の交付のほか、以下の3つの役割が求められることを記載しました。

- 酪農家単位ではなく、指定団体単位で集送乳を行うことによる輸送コストの削減
- 複数の乳業者と取引し、乳業者間の調整を行うことで、受託された生乳の完全販売を実現すること
- 酪農家単位ではなく、指定団体単位で交渉することによる、価格交渉力の強化

今回は、指定団体の共販率が低下した場合、この3つの機能にどういった影響が生じるか考えてみます。

1 集送乳コストの削減

共販率の低下は、自主流通業者の販売乳量などの指定団体外流通量が拡大することを意味します。この場合、指定団体へ出荷する酪農家が、更に「点在化する」、あるいは「遠隔地への乳業工場への販売量の増加」へとつながり、集送乳コストが増嵩して行くことが想定されます。また、指定団体に部分的に生乳販売を委託する酪農家が増加し、こうした酪農家の指定団体への販売乳量が需要期に減少し、不需要期に増加するなど、畜安法に定める「指定団体が生乳販売の受託を拒める事由」に該当する乳量の増加となった場合、指定団体の集送乳コストは更に増嵩することとなります。

CS等の貯乳施設を持たない流通業者等が毎日集乳するためには、ローリーで受乳した生乳を、毎日、売り切る必要性が生じます。このため、販売環境の悪い時などの「低

い乳価での売り抜け」が増加し、指定団体の販売する生乳価格の引き下げ圧力になる可能性もあります。

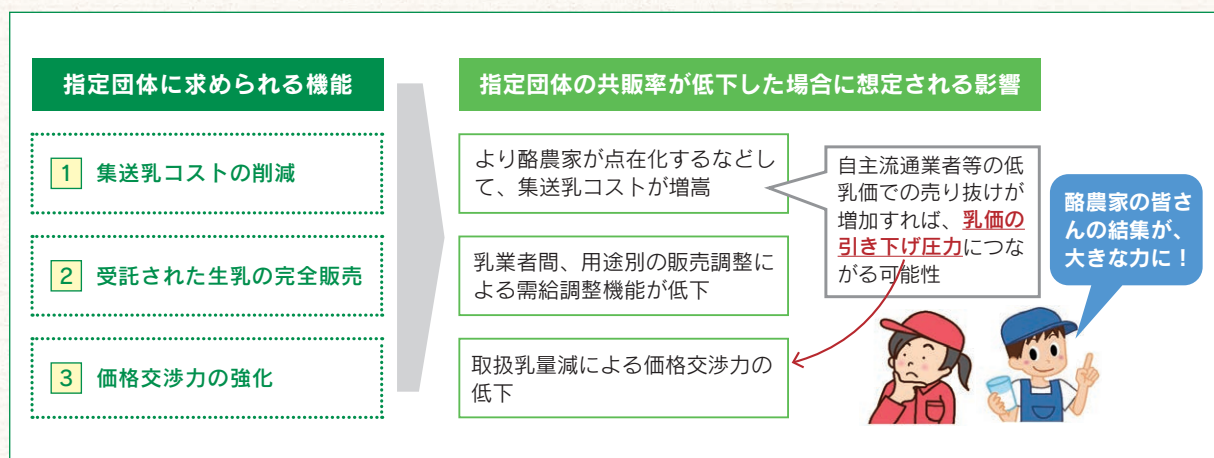
2 受託された生乳の完全販売

指定団体の取扱乳量の減少は、取引乳業者数の減少へとつながり、乳業者間、あるいは、飲用等向けや乳製品向けの用途別の販売乳量の調整による需給調整機能が低下して行く可能性があります。万一、自然災害などの想定外の事態が発生した場合の対応が困難になって行くことも想定されます。

また、指定団体外流通の生乳は、専ら飲用向けに販売されることが想定されます。指定団体が、需給調整機能を発揮し、完全販売が実現されたとしても、乳製品向けなど、乳価水準の低い用途の販売割合が拡大し、プール乳価が低下する可能性があります。

3 価格交渉力の強化

①で記載したとおり、指定団体外の流通生乳が「付加価値生産」ではなく、「低価格帯の牛乳」の販売増加につながった場合、市場からの生乳価格の引き下げ圧力が強くなることが想定されますし、取扱い乳量の減少は、価格交渉力の低下となります。



令和4年度畜産物価格および関連対策の決定について

(1)加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の単価、ならびに全国の交付対象数量が以下のとおり決定されました。

令和4年度加工原料乳生産者補給金単価等

	令和4年度	前年差
加工原料乳生産者補給金	8.26円/kg	±0円
集送乳調整金	2.59円/kg	±0円
合計	10.85円/kg	±0円
交付対象数量	345万トン	±0トン

(2)新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態により積み上がった脱脂粉乳の在庫(2万5千トン)低減に向け、生産者と乳業メーカーが協調して行う取り組みを支援するため、以下の新規事業が措置されました。

ウィズコロナにおける脱脂粉乳等の需給安定推進【新規】37.0億円

*うち在庫低減対策 28.3億円

令和4年度季節別乳価実施要領について

季節別乳価実施要領に基づく令和4年度季節別乳価調整率については、令和3年11月14日開催の第10回理事会および第3回生乳受託販売委員会での協議を踏まえ、同日開催の第11回理事会にて、現行同様の調整率にて実施されることが決定いたしました。

令和4年度季節別乳価調整率

(単位: %)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調整率	94	94	100	110	111	114	105	100	93	92	92	92

季節別乳価制度とは、平成13年度まで各会員段階(7会員中6会員)で実施されていたものを、平成14年度からは九州統一の要領で実施しています。生産者が需要を意識して生乳生産に取り組むことで、夏場に需要が多い飲用向けへの供給量を増やし、乳価を維持・向上させ、生産者手取り乳価の増加に繋げることを目的とした制度です。

生産者の皆様におかれましては、引き続き、需要期生産に向けた取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年度生乳取引交渉(経過)について

令和3年10月6日付けで、大手乳業(3社)・全国連(2団体)へ令和4年度生乳取引に係る要求を、下記の通り申し入れました。

- 1 飲用牛乳向け・学校給食用牛乳向け・はっ酵乳等向け価格については、「現行価格以上」とさせて頂きたい。
- 2 脱脂粉乳・バター等向け・生クリーム等向け・チーズ向け価格については、「全国的な情勢」を踏まえ、別途協議させて頂きたい。
- 3 令和4年度生乳取引数量については、別途協議させて頂きたい。
(内容により、流通経費等の一部乳業負担についても交渉等)

現在までの大手乳業(3社)・全国連(2団体)との意見交換において、配合・粗飼料、資材等の高騰による生産現場の窮状については、共通認識にあります。

但し、各乳業・全国連では、コロナ禍における業務用乳製品の需要減少に加え、海外からのインバウンドの減少による飲用需要低迷から積み上がった乳製品在庫が抱えきれない状況に陥っています。

九州におきましては厳しい生産現場を重視し、大手乳業・全国連との交渉は継続しつつ、双方が進める道を見出し、九州の生産者の方々の生産意欲・生産基盤の毀損を招かぬよう、他ブロックの交渉結果にとらわれず、総合乳価底上げの為、今後も継続して生乳取引交渉を続けてまいります。

令和3年度生乳品質共励会の途中経過について

第3四半期終了時点での共励会審査対象戸数は1,195戸(昨年1,230戸)となっています。満点得点者は1名(昨年0)で長崎県の生産者です。12月までの九州全体の平均点は666点(昨年655点)、11ポイント上昇しました。750点以上(優良賞以上に該当)を取っている生産者は256戸となり、公共施設・大学高校10戸が含まれています。

飼養頭数により、生産管理ポイントが異なりますが、作業する人が変わっても搾乳マニュアルを遵守し、正しい管理作業が実施されれば生乳の乳質は安定し、ペナルティや乳質評価基準をクリアできることが分かります。

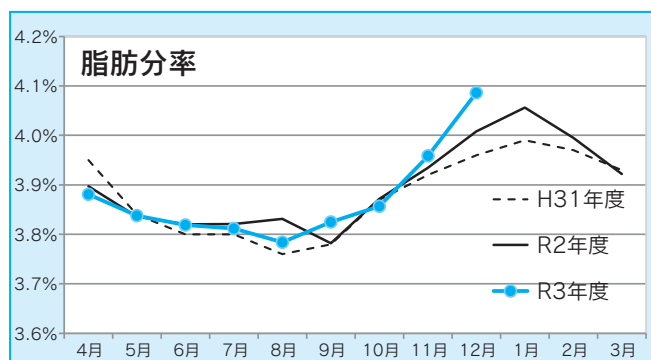
今年度も規模別の最高得点者と全体の上位30名に入られた方々には、最優秀賞・優秀賞として牧場名が刻まれたステンレスプレートや副賞が贈られることになっています。良質な生乳を生産できる管理技術を持った牧場の証として牧場の入り口などに掲げられます。今年もあと3か月となりましたが、今後も良質な生乳生産にご協力下さい。

令和3年度 県別の優良賞者数(12月現在)

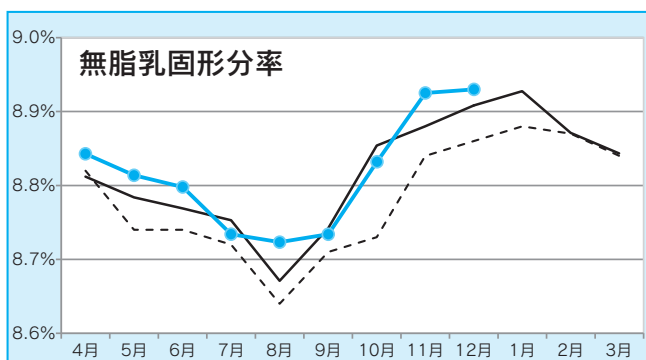
階層別戸数分布

得点	累計	分布	分布比率	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
900	1	1	0.1%			1				
880～899	6	5	0.4%			2		1	2	
860～879	19	13	1.1%	1	1		8		2	1
840～859	40	21	1.8%	4			10	3	2	2
820～839	60	20	1.7%	1		3	9	2	2	3
800～819	105	45	3.8%	5		4	20	5	6	5
780～799	155	50	4.2%	7	2	5	24	3	4	5
760～779	220	65	5.4%	8	2	3	27	6	12	7
740～759	302	82	6.9%	14		4	44	6	10	4
739未満	1,195	1,113	93.1%	139	32	86	304	56	164	112
対象酪農家戸数			1,195	179	37	108	446	82	204	139
平均点			666	658	598	640	692	670	658	642

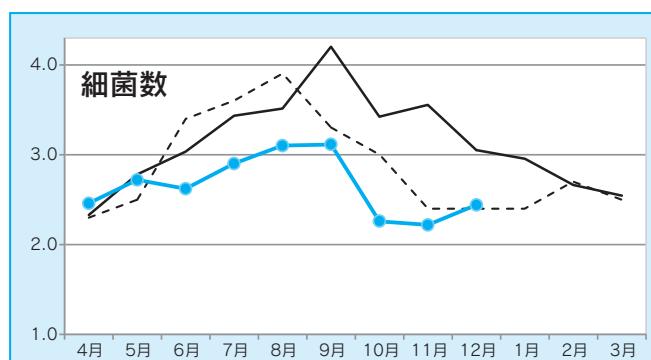
令和3年度 月別受託生乳検査成績



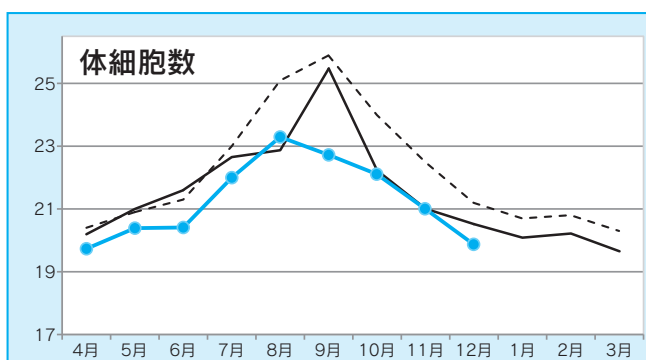
H31年度	3.95%	3.84%	3.80%	3.80%	3.76%	3.78%	3.87%	3.92%	3.96%	3.99%	3.97%	3.93%
R2年度	3.90%	3.84%	3.82%	3.82%	3.83%	3.78%	3.87%	3.93%	4.01%	4.06%	4.00%	3.92%
R3年度	3.88%	3.84%	3.82%	3.81%	3.78%	3.83%	3.86%	3.96%	4.09%			



H31年度	8.82%	8.74%	8.74%	8.72%	8.64%	8.71%	8.73%	8.84%	8.86%	8.88%	8.87%	8.84%
R2年度	8.81%	8.78%	8.77%	8.75%	8.67%	8.74%	8.85%	8.88%	8.91%	8.93%	8.87%	8.84%
R3年度	8.84%	8.81%	8.80%	8.73%	8.72%	8.73%	8.83%	8.93%	8.93%			



H31年度	2.3	2.5	3.4	3.6	3.9	3.3	3.0	2.4	2.4	2.4	2.7	2.5
R2年度	2.3	2.8	3.0	3.4	3.5	4.2	3.4	3.6	3.1	3.0	2.7	2.5
R3年度	2.5	2.7	2.6	2.9	3.1	3.1	2.3	2.2	2.4			



H31年度	20.4	20.9	21.3	23.0	25.1	25.9	24.0	22.5	21.2	20.7	20.8	20.3
R2年度	20.2	21.0	21.6	22.7	22.9	25.5	22.2	21.0	20.5	20.1	20.2	19.7
R3年度	19.7	20.4	20.4	22.0	23.3	22.7	22.1	21.0	19.9			

令和3年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
上期合計	36,256	100.3	7,012	98.5	17,593	99.0	131,364	103.3	35,137	102.2	36,295	98.8	37,819	98.5	301,476	101.3
10月	5,946	101.1	1,147	102.9	2,740	96.0	21,522	103.1	5,766	103.0	5,845	101.3	5,933	95.1	48,899	101.2
11月	5,829	100.5	1,120	102.1	2,769	98.4	21,124	103.5	5,720	104.2	5,730	101.1	6,024	96.8	48,316	101.7
12月	6,051	100.1	1,153	98.1	2,928	99.1	22,085	102.7	6,030	102.2	6,071	100.8	6,415	95.8	50,735	100.9
合 計	54,083	100.4	10,432	99.3	26,029	98.6	196,095	103.2	52,654	102.5	53,941	99.5	56,191	97.6	449,426	101.3

令和3年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		10月			11月			12月			第3四半期計			3年度累計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	25,838	100.8	115.824	22,543	97.0	115.352	22,181	100.4	114.901	70,562	99.4	115.377	224,329	98.4	115.168
	学校給食向け	4,380	95.4		4,081	101.3		3,487	94.7		11,947	97.1		30,879	108.2	
	域外飲用向け	6,509	104.2		7,946	101.6		6,729	101.5		21,184	102.3		66,141	105.7	
	飲用牛乳等向け計	36,727	100.7		34,570	98.5		32,397	99.9		103,693	99.7		321,350	100.7	
	はっ酵乳等向け	7,166	97.3		6,627	91.5		6,582	96.5		20,374	95.1		64,615	97.8	
	飲用等向け合計	43,892	100.1		41,197	97.3		38,978	99.3		124,067	98.9		385,964	100.2	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	2,401	123.4	82.471	4,381	173.1	80.485	9,033	108.0	78.453	15,815	123.2	79.901	40,905	110.3	80.077
	クリーム等向け	2,510	102.2		2,641	103.8		2,637	101.5		7,789	102.5		21,705	104.3	
	チ ー ズ 向 け	96	99.3		97	102.5		86	91.4		279	97.8		852	105.3	
	特定乳製品向け計	5,007	111.3		7,119	137.7		11,756	106.3		23,882	115.2		63,461	108.1	
販 売 乳 量 合 計		48,899	101.2	112.408	48,316	101.7	110.214	50,735	100.9	106.455	147,949	101.2	109.650	449,426	101.3	110.213

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項 目	10月		11月		12月		第3四半期計		3年度累計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,496,687	112.408	5,325,081	110.214	5,400,952	106.455	16,222,720	109.650	49,532,382	110.213
脂 肪 分 加 算 金	37,942	0.776	47,545	0.984	58,091	1.145	143,578	0.970	350,777	0.780
無脂固形分加算金	48,996	1.002	56,494	1.169	61,002	1.202	166,492	1.125	441,522	0.982
成分加算金計②	86,938	1.778	104,038	2.153	119,093	2.347	310,069	2.096	792,299	1.763
季節別調整率③	105%	-	100%	-	93%	-	-	-	-	-
季節別調整金	274,834	5.620	0	0.000	-378,067	-7.452	-103,232	-0.698	1,044,974	2.325
調整後乳代④=①×③	5,771,521	118.029	5,325,081	110.214	5,022,886	99.003	16,119,488	108.953	50,577,355	112.538
販 売 手 数 料	-16,751	-0.343	-16,287	-0.337	-16,560	-0.326	-49,598	-0.335	-150,974	-0.336
生 乳 検 査 料	-5,868	-0.120	-5,798	-0.120	-6,088	-0.120	-17,754	-0.120	-53,931	-0.120
送 乳 経 費	-189,753	-3.880	-195,541	-4.047	-187,841	-3.702	-573,134	-3.874	-1,778,734	-3.958
需要者負担額(運賃補填)	4,545	0.093	3,841	0.079	3,023	0.060	11,409	0.077	30,013	0.067
C S ・ 冷 却 費	-46,548	-0.952	-48,397	-1.002	-63,709	-1.256	-158,654	-1.072	-462,888	-1.030
集 乳 経 費	-112,857	-2.308	-111,410	-2.306	-117,098	-2.308	-341,364	-2.307	-1,035,980	-2.305
プ ール 費 用 ⑤	-367,231	-7.510	-373,591	-7.732	-388,272	-7.653	-1,129,095	-7.632	-3,452,495	-7.682
差引乳価②+④+⑤	5,491,228	112.297	5,055,528	104.635	4,753,706	93.697	15,300,462	103.417	47,917,158	106.619

令和3年度 LL牛乳・バター利用拡大推進運動の 実績見込みについて

本年度も九州統一のデザインを使用したLL牛乳・バターの利用拡大推進運動を実施しました。本会の推進先からは「デザインがとてもかわいらしいので贈り物として最適」などの嬉しい声が寄せられました。これからもミルとミクのキャラクターを活用し、幅広く牛乳・バター利用拡大推進運動を展開してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

各会員・本会推進実績見込み（期間：令和3年12月～令和4年2月）



【熊本県酪連】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

会員名	LL牛乳実績	バター実績 (200g換算)
ふくおか県酪協	21,720本	5,430個
佐賀県農協	4,440本	1,110個
長崎県酪連	13,776本	3,390個
熊本県酪連	115,896本	21,540個
大分県酪協	20,472本	5,974個
宮崎県経済連	30,000本	7,200個
鹿児島県酪協	16,920本	4,380個
九州生乳販連	10,008本	2,400個
合 計	233,232本 (46.6t)	51,424個 (257.1t)
目標数量	153,120本 (30.6t)	38,820個 (194.1t)
目標上回り分	80,112本 (16.0t)	12,604個 (63.0t)

()内は生乳換算量



【㈱弘乳舎】



【九州乳業㈱】



【南日本酪農㈱】

イオン九州とのタイアップ 「ミルクde応援！プレゼントキャンペーン 2022」について

新型コロナウイルスの影響により業務用牛乳・乳製品の需要が減少する中、牛乳の販売促進につなげる施策として「ミルクde応援！プレゼントキャンペーン2022」を実施しています。

このキャンペーンは、1月7日（金）～2月5日（土）に対象の成分無調整牛乳を購入し、レシートを撮影して九州LoveMilkClubのLINE公式アカウントより応募した方の中から抽選で調理家電が当たるという内容で、イオン九州及び系列店舗（マックスバリュ、イオンスタイル、ザ・ビッグ等）を含めた合計246店舗にて実施中です。

また、1月8日（土）には、イオンモール福岡にてキャンペーンのリリース会を実施しました。本会からは中村隆馬会長が出席し、年末年始にかけて危惧されていた生乳廃棄を回避できたことを含め、消費者へ日頃から牛乳を飲み続けていただいている事へ感謝の気持ちを述べるとともに、イオン九州の南谷和彦常務と一緒にグラスに注がれた牛乳を飲み干し、キャンペーンの実施を大々的にアピールしました。

今回の企画への想いやキャンペーンの詳細につきましては下記特設サイトにて紹介していますので、こちらを是非ご覧ください。

『ミルクde応援 プレゼントキャンペーン 2022』特設サイト↓

<https://kyuhanren.com/milk-de-ouen2/>



プレゼント内容



リリース会の様子

九州CGCとのタイアップキャンペーンのお知らせ（2月中旬～3月末）

九州内のCGC加盟店舗で対象の成分無調整牛乳を購入し、レシートを撮影して応募していただいた方の中から、抽選で賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施します。これからも引き続き、牛乳消費拡大に繋がるよう施策を展開していきます。

これらのキャンペーン情報は本会のホームページ、Facebook、Instagram、Twitterでも随時紹介していきますので、是非チェックしてみてください。

＼ 九販連公式サイト・SNS・YouTube公式チャンネルはこちら！ ／

公式サイト	https://kyuhanren.com
Twitter	https://twitter.com/love_milk_club
Facebook	https://www.facebook.com/kyuhanren
Instagram	https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/
YouTubeチャンネル	https://www.youtube.com/channel/UC7mW1zTUh1ZpvyvEXZkZWzQ



ホットプレートで九州うまか飯キャンペーン実施中！

この冬おうちで、ご家族やグループで楽しめるキャンペーンのご紹介です。

このキャンペーンは、牛乳・乳製品をたっぷり使ったホットプレート料理3品をInstagramで紹介し、そのレシピを参考に料理写真を投稿していただいた方の中から40名様へ豪華賞品をプレゼントします。また、投稿する料理写真は“ホットプレート料理の母”と呼ばれる「かめ代。」さんのレシピを参考に、九州のご当地料理を牛乳や乳製品でアレンジした料理や、ビジュアルで九州を表現した料理など九州にゆかりのある料理の写真も受け付けています。牛乳・乳製品の消費拡大に繋がるよう展開してまいります。

『ホットプレートで九州うまか飯』特設サイト↓

<http://www.mirutomiku.jp/kyusu-umakameshi/>



九州 Love Milk Club presents

ホットプレートで九州うまか飯キャンペーン

2022年1月15日(土)～2月20日(日)まで

牛乳や乳製品を使用したホットプレート料理を作り、
「#ホットプレートで九州うまか飯」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿すると、抽選で豪華賞品をプレゼント！

かめ代.さん(料理家)



ミルクの恵みたっぷり！
「フルーツヨーグルトケーキ」

ヨーグルトを入れると
生地がしっとり・ふんわり
します！

乳製品そのものの
“うまみ”と“まろやかさ”を
お楽しみください

クリーミーなごちそう♪
「チキンとポテトのクリーム煮」



トロトロチーズを囲んで楽しむ♪
「食パンチーズフォンデュ」

食パンの耳の中にチーズを
入れるだけのお手軽
チーズフォンデュです！

新聞広告の第2弾を掲載しました check!

『一日、一日。』 今日という日の大切さを、牛乳は伝えています。

新聞を使った酪農理解醸成活動として、コロナ禍2年目を迎え思い通りにならないことが続くなか、九州の酪農家が牛と丁寧に向き合い、安心・安全な生乳生産のために1日1日努力している姿を生活者に伝えました。新聞掲出第2弾は、令和2年度生乳品質共励会第3部最優秀賞 福岡県八女市・江上牧場さんをモデルに12月11日（土）に掲載しました。



生乳品質共励会第3部最優秀賞 福岡県八女市 江上牧場グリーンファーム八女 江上正生さん
朝の牧場を歩く江上さん

今日という日の大切さを、
牛乳は伝えています。

牛乳は「思い通りにならない」飲み物です。
長期の保存はできません。

牛の健康状態が品質に直結するので、
365日少しも油断することができません。
だから一日一日の仕事をしていねいに、
コンスタントに積み重ねます。

人に会えず、行きたい場所へも行けない。
コロナ禍の日々もまた

「思い通りにならない」ことの連続でした。

そんな中でも、九州の酪農家たちは、
思い通りにならないことのスペシャリストとして、
日々の仕事に向き合っています。

福岡県八女の酪農家、江上さんは、
酪農にとって大切なこと、という質問に
しばし考えた後、こう答えてくれました。

「手を抜かず、やることをやる」

思い通りにならない日々でこそ、一日、一日、
工夫を重ねて、希望をもって、一日、一日、
笑顔で元気に、一日、一日、

牛乳が、今日という一日の
前を向く力になるために。

今日の安心。今日のおいしさ。
九州の牛乳。



九州の牛乳と人と大団円。九州 Love Milk Club www.milketomiku.jp

生乳生産者畜産部会事務局 (国)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援

◆12月11日（土）掲載 令和2年度生乳品質共励会第3部最優秀賞：福岡県八女市・江上牧場さん
（掲載済みの新聞広告は、本会公式サイト（14ページ参照）から閲覧できます）